

「酒蔵」から始まる物語

製作 井上ゼミナール4期

用語説明

杜氏集団(やづじしゅっだん)

お酒を造る人達の集まり(杜氏+蔵人)
彼らは皆農民である。

杜氏(やづじ)

杜氏集団の中のトップ 各集団に一人しかいない

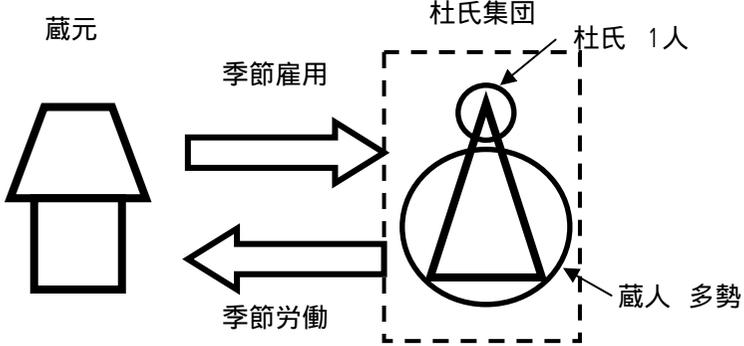
蔵人(くらびと)

杜氏の下でお酒を造る人々

蔵元(くらもと)

酒の醸造元、オーナー家

相関図



198×年某日、日本酒メーカーA酒造会社社長の松井は悩んでいた。近年の農業の衰退にもなる杜氏、蔵人の減少という問題がA社にも重くのしかかってきていた。

「杜氏、蔵人をどうしようか。」松井は悩んでいた。昼食後、松井の元へ副社長の山田が訪ねてきた。

山田「失礼します。」

松井「おお。どうしたかね？」

山田「社長、杜氏問題は解決しましたか？」

松井「いや、どうにもこうにもね。」

山田「ちよっと一提案してもよろしいでしょうか？」

松井「おお、たのしいねえ。ぜひ聞かせておくれ。」

山田「ありがとうございます。では早速ですがこちらをご覧ください。」

松井「ふむふむ、日本酒売れなくなってきているねえ。困ったねー。」

山田「でも見てください。うちでは売上を伸ばしているんですよ！……どうです、この際機械化を進めてみてはどうでしょうか。もっと多くの人に呑んでもらいたいと思いませんか？せっかく全国各地にうちの酒を扱ってくれている店舗があるんですよ。」

松井「しかし機械化ってのはどうもすかんねえ。多くの人にお酒を提供できるといつ点ではうちの理念にかなっているが、そんなんでうまい酒が造れんのか？うちは、よりうまい酒を多くのお客様に飲んでももらいたい、ということを先代からの理念としているんだぞ。」

山田「社長、今の技術をご存知ないんですか？今や、年中造れる四季醸造の蔵はもちろんのこと、麹の発酵具合なども数値化して全部機械が酒を造ることもできるんですよ。そうしたら、杜氏を探して雇う手間も省けますし。」

松井「それはすごいなあ……容易に多く酒が造れるようになるってことか。んん、でもお金かかりそうだな。」

山田「今のうちの売上なら、すぐ元がとれますよ。」

松井「そうか、もうすぐ考えてみるよ。」

山田は退室する。

松井は部屋の中で一人考え続けていた。『いったいどうしたらいいものか…』

数日後、昔からの好であるB酒造の社長田中と飲むこととなった。

田中『よっ、ひさしぶりだな。』

松井『よっ、おめえ相変わらず元気そうだな。』

田中『おう、それだけがとりえだっ、ガハハ！しかし、最近どうなんだ？』

松井『どうってなにがよっ。』

田中『仕事でもなんでもだ。』

松井『…それがよっ、最近酒造るやつが減ってっべっ、これからどうやって酒造ってったらいいか悩んでんだよなあ。』

田中『なに、おめえそんなに悩んでんのか？今までどおりやりゃいいべ。』

松井『…』

田中『それに、おめえんとこ儲かってんべっ、こないただっておめえんとこの酒は美味い日本酒ランキングってやつにも上の方に載ってたって若いのが言ってたよ。だから、そんな心配ねえよ。』

松井『でもよあ、実際、毎年毎年いい人数集めるのがむずかしくてよ。いつそのこと、冬だけじゃなくって、年間で雇うちまっかなあ。』

田中『ほかいえっ、そんなじゃあ、酒造りしない時期の給料どつすんだっもったいねえべっ、それになんかことしたら杜氏や蔵人がだれんべっ、したらいい酒もできなくなる。昔から、季節で雇うのには意味があんだから、今のままがいいんじゃねえのっ？』

松井『たしかにな、でも、もう少しづつくる量増やしたいって気持ちもあるからな。そうなるべ、たくさん蔵人雇つか、機械でやんのがいいのかなあ。』

田中『機械か…でもよ、地酒がきてるみてえだし、こだわり賣いたもん勝ちなんじゃねえのか？』
しかし今日は久々に会ったんだから、まあ呑めや。』

後日、松井はいつも商品を置いてもらっている加藤酒屋に会いさつに回った。行く途中、杜氏の佐藤に出会う。

松井「おや佐藤さん。いつもおつかれさま。」

佐藤「あっ社長、お疲れ様です。」

松井「今年の酒の出来具合はどうだった？」

佐藤「今年もいいですよ。麹も気候もすばらしいです。」

松井「そうかそうか。それは楽しみだなあ。君ももうペンランだし、安心して任せられるよ。」

佐藤「いやいや。酒造りは毎年一年生ですよ。かれこれ10年杜氏をやっていますがそれでも10回しか造れないんですよ。酒つてのは生き物だし。」

松井「そうかーすばらしいなあ。」

その足で松井は加藤酒屋に向かった。

松井「いつもうちの酒をおいってくれてありがとう。今年もいい酒ができましたよ。」

加藤「そうですかー。楽しみだなあ。最近はお客さんの舌も肥えてきてねえ。きつと喜びますよ。うちのお得意さんたちも『A酒造のお酒が一番うまい』って言っていますよ。本当おぞのお酒は人気があるから助かりますよ。」

松井「そういってもらえるのが一番嬉しいですよ。じゃー今年もよろしく頼みますよ。」

加藤「うちの酒よろしく頼みますよ。」

今まで、副社長の山田、昔からの好である田酒造の田中、A酒造の杜氏である佐藤、加藤酒屋店の店主加藤の4人の話をきいて、松井はどのような行動をとるだろうか。基本的な方針を以下の3つから選び、その理由も述べてください。

- 1 杜氏制度を廃止して全て機械化する。
- 2 今まで通りの杜氏制度でやりつづける。
- 3 杜氏集団を社員として年間雇用する。